

## 藤沢市教育委員会定例会（6月）会議録

日 時 2004年6月4日（金）午後2時

場 所 東館2階教育委員会会議室

1 開 会

2 会議録署名委員の決定

3 前回会議録の確認

4 教育長報告

- (1) 藤沢市青少年問題協議会委員の任命について

5 議 事

- (1) 議案第11号 八松小学校及び明治小学校の通学区域の一部変更について

- (2) 議案第12号 藤沢市社会教育委員の委嘱について

- (3) 議案第13号 藤沢市青少年相談センター運営協議会委員の委嘱について

- (4) 議案第14号 藤沢市スポーツ振興審議会委員の任命について

6 その他

- (1) 平成15年度新入生サポート事業の実施報告について

- (2) 2市1町相互プール利用の開始について

7 閉 会

出席委員

1番 中 村 喬  
2番 數 野 隆 人  
3番 開 沼 佳 子  
4番 平 岡 法 子  
5番 川 島 一 明

出席事務局職員

教育総務部長	小 野 晴 弘	生涯学習部長	西 山 三 男
生涯学習部担当部長	関 根 克 尚	教育総務部参事	浅 木 良 一
教育総務部参事	尾 嶋 良 二	生涯学習部参事	齋 藤 潔
生涯学習部参事	植 木 正 敏	生涯学習部参事	渡 辺 恭 博
生涯学習部参事	武 清	生涯学習部参事	田 中 正 男
生涯学習部参事	酒 井 一 二	学務課長	飯 島 広 美
学校教育課長	新 井 泰 春	保健給食課長	廣 野 賢 二
書 記	大 橋 久 高	書 記	井 出 秀 治









習に集中できない子には、良いところをほめ励ますことにより、やる気を引き出すよう努めた。

講師の自己評価として、この事業が学習にどの程度役立ったと思うという問いに対して「少し役立った2人、役立った6人、とても役立った9人」と17名中15名が評価をしております。

学校生活の適応に関して、ア 不安そうな様子の子に、イ 集団行動が苦手な子に、ウ 粗暴な子・自己主張の強い子に、エ 片づけの下手な子・準備の遅い子にと分けております。講師の自己評価でも17名中16名が「役立った8人、とても役立った8人」と答えております。

児童の声として、「わからないところをすぐに聞くことができてよかった」とか、「頑張ると2人の先生からほめてもらえるのでうれしい」等。保護者の声として「できないとき教えてもらったことを、帰ってきてから楽しそうに話してくれて、親としてとてもうれしい」とか、「2人の先生がいて丁寧に見てもらえる、目が行き届く、子どもの話を聞いてもらえるので安心である」というような感謝の声が寄せられております。

成果・効果の 学習指導に関しては、つまずきの見られる子だけでなく、一人ひとりに適切な助言や指導ができ、学習内容の定着に効果があった。特に個別指導が必要な子どもに対して効果が大きい。丁寧に指導することにより自信を持ち、学習意欲が高まった等です。 学校生活への適応に関しては、集団への適応に時間のかかる子どもへ繰り返し支援を行うことによって、学級集団づくりに大いに役立った。個々への働きかけが増えたことで子どもの積極性が高まり、学校への適応に役立った。複数の教師が子どもを観察することで、異状に早く気づいたり、つぶやきを拾い上げられたので、子どもが安心感を持てた等です。

最後に、課題として、子どもへのよりよいサポートをするためには、担任と情報交換・打ち合わせ等の時間が必要であるが、現状では十分な確保が難しい。他のサポート講師との情報交換の場を設定するなど、よりよいサポートの仕方について研修する機会が必要である。新入生サポート講師によるクラスごとの授業は毎日1時間であり、さらにより多くの時間、子どもたちと関わられるように授業時間を拡大する。1年生1学級平均35人未満の小学校にも本事業を拡大実施する。以上です。

数野委員長 事務局の説明が終わりました。ただいまの説明に対してご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

平岡委員 新入生サポート講師のうち教職経験者が意外に少ないが、教員免許は持っているのでしょうか。

飯島学務課長 新入生サポート講師の条件として小学校の免許状を持っているというこ

とです。希望があったけれども、教職に就く機会がなかったという40代の女性の方の応募が多かったです。

川島委員 体育ではどんなサポートをしているのか教えていただきたい。

飯島学務課長 体育については集団で活動するということで、子どもたちが危険な状況にならないように担任の先生の指示によって適切な場所においてサポートする。教師1人でグラウンド等で体育をしますと、ふらふらと別のところへ行ってしまうような子どももいますので、連れ戻すというような形で、集団にとって安全である状況をつくるということを重点的にサポート講師が指導しているという状況です。

川島委員 主要科目だけでなく実技を伴う図工とか体育などでも効果を奏していると考えてよろしいですか。

中村委員 直接サポートが行われている授業を見ていると、例えば図工では1年生だと、準備をするだけでもかなり個人差があってなかなかうまくいかない子どもに、1人サポートがつくことによって手ぎわよくクリアーされていくとか、作業の進捗状況などについても、主として1人は一斉に指導していく形になりますけれども、もう1人がきめ細かく机の間を回ってカバーしてやることで学習が進むとか、初めての小学校の学習の中にあって学習スタイルをしっかり身につけていくという意味で非常に効果があるのではないかと思います。算数、国語などの主要教科の学習においても同じようなことが言えるわけです。わかった顔はしているけれども、実際に個別に回ってみるとほとんど学習に手がついていないような子どもがいたり、そういったことを発見しながら学習を定着させていくという意味での新入生サポート事業の効果は非常に大きいものがあるという感を持ちました。

川島委員 主要科目だけでなくサポートを拡大することで学問領域がアップすると思う。マン・ツー・マンの教育というか、個人の手を待っていると思うので、子どもたちの心に触れ合うような図工とか体育等の技術を伴う科目にもより拡大していただきたい。

開沼委員 子どもたちが学校生活に慣れ、かつ学習態度をつくり上げていくという点ではこのサポート事業は大変重要だと思いますが、1クラス、1時間ということだけでなくサポートの時間をもっと長くとりとるか、サポートする方も長い目で一緒に担任の先生と関わっていけるような体制づくりになることを希望します。

小野教育総務部長 このサポート事業については、財政的な面があって今のような制約があるわけですが、1年間やってみて、1年生の1クラスに、もう1人の方がサポートで入ることの効果の大きさにびっくりしている状況ですが、1日1時間ということだけでなく、継続してそのクラスに入って、子どもたちをずっと見

ているという状況ができれば、もっともっと落ち着いた1年生のクラスができるのではないかという気がします。私も実際に授業を見ていますが、サポートの人は実にすばやくやっていますし、報告どおりであるという実感をしております。今後、いろいろな形で働きかけをしながら予算取りに努めていきたいと思っています。

平岡委員

各学校の先生方も喜んでいきます。結果報告を見てもすばらしい制度であると思います。課題のところ、時間数をもっと多くとか、当初は30人以上のところにもという要求をしたと聞いていますので、その範囲まで広げるように働きかけをしていただきたいと思います。15年度の実績では費用はどのくらいかかっているのですか。

飯島学務課長

当初予算で約1,000万円です。主に人件費、交通費です。

開沼委員

実際に対応されている先生方のご意見なり感想を伺えたらと思います。

飯島学務課長

年度の終わりに学校長から実施報告をいただいた中に、先生方のご意見として「大変すばらしい。普通ならば授業が中断されて1人の子に関わらなければならぬところを授業がスムーズに流れていく。そのためにサポート講師が大いに働いてくれている。サポート講師が個々の子どもたちを丸抱えにして面倒見てくれることによって、全体の授業がとてもスムーズに行く。けが等が起きたときにも自分は教室にいられて、その子の手当はサポート講師が行ってくれる。中にはお漏らしをしてしまった子には回りの子たちに気づかれないうちに手当ができる」というようなことで、配置されていない学校の校長先生方はぜひ配置をしてほしいとか、今の35人以上というのは厳しすぎるといううれしい励ましをいただいております。

中村委員

指導に当たる講師、児童や保護者、校長や教員とさまざまな立場の人たちから事業効果についてプラスの評価が出ています。その背景としていかに1年生の指導が大変かという現実があるだけに、1年生という小学校教育のスタートの大事な時期にこの事業を当てはめていくことは、藤沢らしい教育を実現していくための1つの手立てとして大事であると思っています。この事業の充実のためにこれからも皆様のお力添えをいただければと思います。

數野委員長

事業を始めて1年間ですが、担任の先生、サポート講師、保護者、児童から大変な評価が得られている制度ですけれども、今の財政状況ではなかなか人を増やすことができないということもあります。この事業を継続していただいて、課題である担任の先生とサポート講師との情報交換や打ち合わせ等ができないという面については、マンパワーが充足してくればできると思っていますので、今後、折に触れてこの事業が継続していけるようにみんなで協力していけたらと思います。

平岡委員

算数(13校)、国語(9校)というのは学級数ではないのですか。1校に



用者があります。そういう中で他市町民が相互に利用できることで利用者の増が見込まれると思います。お互いの市町民の利便性の中で、例えば茅ヶ崎方面に出かけた折に茅ヶ崎や寒川のプールを利用する、あるいは仕事の帰りに職場の近くのプールを利用したりする中での利便性が図られるのではないかと考えております。

それから他のスポーツ施設の見通しですが、現在プール以外の施設の対象者は市民並びに通勤者、通学者と茅ヶ崎市堤地区の方です。ほかの施設となりますと容量の問題、例えばトレーニングルームとか部屋貸しでは藤沢市民の稼働率が高くなっておりますので、どうしても藤沢市民にいろいろな影響が出てしまう。プールの場合はそういう影響が少ないということから、今回相互利用を検討してできるという方向になりました。他のスポーツ施設につきましては、もう少し研究していかなければ難しい部分が出てくるかと思っております。

平岡委員 寒川町の屋内プールは温水プールだと思うけれども、夏季のみ利用ということの事情について教えてください。

田中生涯学習部参事 寒川町営プールは屋内、屋外とありますが、屋内プールについても夏季の7月1日から8月31日までで、その期間以外は屋内プールであっても稼働していないと聞いております。その関係から今回7月1日から相互利用を開始するという運びになっております。

平岡委員 温水プールでしょうか。

西山生涯学習部長 寒川町営プールは屋根つきであるのですが、温水ではないということと夏の期間だけの利用ということになっております。それからこの事業は県下のスポーツ施設の広域利用ということで、生涯スポーツを推進する上での施設の活用であるわけですが、もとは平成10年に開催されました「かながわ夢国体」のときに、藤沢市内におきましては新たな施設建設等は特になく、既存施設を有効活用するという国体に取り組んだわけですが、他市町村におきましては、新しい施設を相当建築された部分もありまして、国体開催後の施設の有効活用ということで、一番先に行ったのが西湘地区の小田原市で、小田原市もバスケットボール4面開催できるものと、ソフトテニスコート16面等の大規模施設を国体のために建設いたしました。これをより広く市民に開放していく中で、小田原市民だけでなく、周辺の市町村も取り組みながら相互利用できるような形でスタートしてきたという経過がございますので、この湘南地域におきましては、各地の設置条例等をいろいろ研究する中で、ようやくプールについては相互利用というところに来たということがございます。

川島委員 鶴沼プールガーデンが閉鎖して2～3年になるが、湘南地区の方は楽しみ

ながら泳いでいたと思う。それが閉鎖したことで八部とか秋葉台とか石名坂のプールに行くことになったが、鶺鴒沼の夏型のレジャープールがなくなったことでチケットとか何か市民に対するサービスを考えていますか。

西山生涯学習部長 2市1町のプール相互利用に伴う市民へのサービスの還元ですが、例えば藤沢市民が仕事等で茅ヶ崎や寒川に通っている。そのついでに今までは利用できなかったプールが利用できるという効果もあります。それから鶺鴒沼プールガーデンについては経営上の関係で小田急が手を引いた経過がありますけれども、市の実態を見ますと市営プールが3カ所あるということと、県営プールも辻堂に規模の大きなものがあります。さらに市内の小学校、中学校のプール開放もしておりまして、プール施設という部分だけとらえれば、藤沢市民はある程度満たされている状況にあるのではないかと思います。

それから遊泳ということでは湘南海岸は可能ですけれども、茅ヶ崎市民が、寒川町民が藤沢市の施設を利用される。またその逆もありますので、お互いの市町において相乗効果はあるのではないかと思いますので、特にチケット等のサービスについては現状では考えておりません。

酒井生涯学習部参事 実態的なお話をさせていただきますと、夏場におきましては特に屋外プールを含めて、秋葉台プールは日曜日には4,000人から4,500人の利用で、イモ洗いの状態です。そこに相互利用ということで今年度はそれに拍車がかかるのではないかと心配があります。それから体育施設の個人登録、団体登録していないのはプールとサウナだけです。テニスの個人利用にしても個人登録をしなければいけない、在住、在勤、在学の証明証がなければ使えないとか、団体でもいろいろな規制があります。そういう中でプールが一番話が進みやすかったということです。

數野委員長 藤沢市の利用料金が他市より高いと思うのは、施設その他の面でサービスがいいとか、メンテナンスにお金がかかっているからということなのですか。

酒井生涯学習部参事 藤沢市のプールは施設のにも非常にきれいで、監視体制も充実しているという状態はございます。茅ヶ崎市では大人200円ということで安いわけですが、もともと2時間で幾らという時間制限があったので、その名残りがあるのではないかと思います。藤沢市のプールは400円で1日中利用できますが、これからの駐車場の有料化に向けて時間制限することで回転がよくなるとか、収入も上がるという考えもあったところ、茅ヶ崎市は昨年、時間制限をやめて藤沢市と同じような形をとったと聞いております。藤沢市の1日いられて400円という解釈をしていただければ、それなりに意味があるのかなと思っております。

數野委員長 ほかにありませんか。

ないようですので、この件を了承することといたします。



この会議の結果を記載し、相違ないことを確認する。

藤沢市教育委員会委員長

藤沢市教育委員会委員

藤沢市教育委員会委員